

普及活動情勢報告（平成27年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

芳生野営農生産組合（津野町）が第6期総会を開催



芳生野営農生産組合総会が津野町保井川集会所で2月22日に開催され、組合員14人が参加しました。決算報告では、夏場の天候不順にも関わらず、米ナス等が前年を上回る収益になったことが報告され、個々の組合員の努力と関係機関の連携が大きな成長につながったことが確認されました。

今後、法人化に必要な関係書類の作成や酒米栽培による地域と酒造メーカーとの交流会などを支援していきます。

平成27年産加工用わさびの第2回現地講習会を開催（津野山）



第2回現地講習会を2月24日に取引先の参加のもと津野山地域で開催しました。この講習会は、現在の生育状況の確認と収穫までの管理をテーマに、昨年12月に開催した第1回に引き続いての開催となりました。参加した農家は、3ヶ所の拠点ほ場を回り、取引先を交え、現在の生育状況を確認し合いながら、アブラムシ等の病虫害防除や今後の株養成について熱心に勉強しました。

今後もJA津野山や園芸連等とともに出荷量や品質を確保するため、目慣らし会を開催する等、冬場の補完品目として有望な加工用わさびの普及に取り組みます。

JA土佐くろしおシシトウ部会の現地検討会を開催



現地検討会の様子

JA土佐くろしおハウスシシトウ部会の現地検討会が2月25日に開催され、17名の生産者が参加しました。

環境制御技術における現地実証圃の経過報告や天敵温存植物を利用したIPMの取り組み、また、現在導入が進んでいるヒートポンプの効果的な利用について情報提供を行いました。

生産者からは、環境制御については「実際にCO₂施用を行う場合どう取り組んだらよいのか」といった意見や、IPMについては「天敵温存植物を利用して天敵の定着が良くなった」といった新たな取り組みへの評価が聞かれました。

今後も現地検討会を行い、JA土佐くろしおハウスシシトウ部会の収量品質の向上に努めていきます。

JA土佐くろしおサヤインゲン部会の中間検討会を開催



中間検討会の様子

JA土佐くろしおサヤインゲン部会の中間検討会が2月25日に開催され、18名の生産者が参加しました。

導入が進んできた、スワルスキーカブリダニを用いたIPM技術の取り組みと、新たに検討が始まったサヤインゲンにおける環境制御技術実証圃の経過報告について情報提供を行いました。

スワルスキーカブリダニを用いたIPMの取り組みは始まったばかりで、生産者の関心も高く、早期確立が望まれています。また、環境制御技術については今年新たに検討が始まり、関心が高まっています。今後も継続して情報提供を行い、JA土佐くろしおサヤインゲン部会の収量品質の向上に努めていきます。

津野町直販所生産者向けに勉強会を開催



葉山会場での様子

3月3日と4日に津野町の直販所への出品者を対象に生産者勉強会を開催し、延べ52人が参加しました。春蒔き野菜についての情報提供の他、JAS法に基づく「食品の適正表示について」、「農薬の安全使用について」の指導を行いました。専門的な話でしたが、参加者も熱心に耳を傾けていました。

今後も食品の適正表示や農薬の履歴記帳が徹底されるよう、管内の直販所を支援していきます。

ユズ剪定講習会を開催（JA津野山ユズ部会）



JA津野山ユズ部会対象に剪定講習会を3月6日に開催し、生産者35名が参加しました。

ユズの産地化に向けた取り組みが始まったばかりで、植栽5年未満の樹が多いため、主幹の配置、第1亜主枝の誘引等の仕立て方や、冬期から開花期までの栽培管理について指導しました。

参加者は、結果母枝と着果特性について、仕立てによる作業の効率化等について熱心に確認していました。

今後もJAと連携して、モデル樹を配置するなど検討していきます。

ミョウガ出荷始め総会を開催



JA土佐くろしお
ミョウガ出荷始め総会

3月10日、JA土佐くろしおミョウガ部会の出荷始め総会が開催され、約100名の参加がありました。

ミョウガ部会では収量・品質の向上をはじめとして、省エネや排液処理対策等のさまざまな課題に取り組んでいます。今年度は昨年特に問題となった高温期の腐敗問題を最優先課題として生産者と関係機関が連携して取り組む意向を示しました。

腐敗の原因究明のため農業技術センターの協力を得ながら行ったミョウガの含水率等の調査結果を報告し、給液管理や、今年度の主な取り組み内容について周知しました。

今後も、関係機関と連携しながら問題解決に向けて取り組んでいきます。

津野山地域主要野菜の生産販売状況を確認（平成26年度JA津野山園芸部総会）



平成26年度JA津野山園芸部反省会とミョウガ・ナス・シントウの各部会の総会が3月12日に大勢の生産者の出席のもとJA津野山営農センター輝で開催され、平成26年度の生産販売状況や次年度の取り組みを出席者全員で確認しました。また、昨年9月に生産者やJAとともに実施した土佐甘トウ・米ナスの販促活動、担い手の確保育成に向けた新たな取り組みなどを紹介しました。

今後も生産者やJA津野山と連携し、津野山地域の維持発展に向けた農業への総合的な取り組みを進めて行きます。

J A津野山シシトウ部会の総会を開催



J A津野山シシトウ部会では、3月12日に総会が開催され、シシトウ生産者と甘長トウガラシ生産者と合わせて19名の生産者が参加しました。

うどんこ病対策やトンネル利用の露地栽培事例について説明しました。雨よけ栽培からは、「うどんこ病の耕種的防除と薬剤防除とを合わせた総合防除が大事なことがわかった。もっと農薬の特性を知りたい」という意見も出て、関心の高さを感じました。

つの茶の生産販売状況及び今後の取り組みを協議・確認（平成26年度JA津野山茶生産組合総会）



平成26年度JA津野山茶生産組合総会が3月17日に大勢の生産者や関係機関の出席のもと津野町西庁舎で開催され、平成26年産つの茶の生産販売実績や平成27年度の取り組みを協議確認しました。

平成27年度は茶工場の再編整備が計画されており、それに併せた生産から加工、販売まで一体的な取り組みを関係機関等を含めて進めて行くことを確認するとともに、重要害虫チャトゲコナジラミの防除対策を茶業試験場と連携し生産者に周知しました。

今後も生産者やJA、町、茶業試験場等と連携し、つの茶の産地振興に取り組んでいきます。